



# 森信三「しつけ三原則」

「森信三」という人物がいます。

戦前・戦後を代表する教育実践家です。

日本の教師であれば誰もがその名を一度は耳にしたことがあるはずです。

著書も数多く、教育界にとどまらずあらゆる分野の人々に、今尚深い影響を与え続けています。

その森信三が提唱していることの1つに、「しつけ三原則」があります。

子どもに身に付けさせたい生活のしつけは、様々あります。

**朝起きてから…**

**食事の時…**

**人との接し方…**

**公共の場での振舞い方…**

**物の扱い方…**

**夜に眠る時…**

細かく上げれば、きっと切りがありません。

けれども、それらを全て教え込むのではなく、「根本的なしつけ」を重点的に行えば、他のしつけも出来る様になる。

森信三氏は、そのように述べています。

では、根本的なしつけとは何か。

それが、以下の「しつけ三原則」です。

- 1、朝のあいさつ
- 2、ハイという返事
- 3、はきものを揃え、椅子を入れる

キーワードでまとめると、「挨拶・返事・後始末」となります。

この3つを、遅くとも小学校までに身に付けることが出来れば、他のしつけはとくにせずとも自ずと出来る様になるのだそうです。

氏の考えだけに頼るわけではありませんが、これら生活のしつけは、学習とも非常に深いつながりがあることは間違いありません。

これは、約20年間の教師生活で得た経験則でもあります。

ですから、小学校生活が始まって間もなくの現在は、特にこの3つを重点的に教えて、できた時にしっかり褒めたいと思っています。

例えば、「～～先生おはようございます」と名前を呼んで丁寧にあいさつができる子がこの1週間でどんどん増えてきました。

もちろんその場で盛大に褒めました。

また、教室では意図的に毎日「名前」を呼ぶようにしています。

健康状態などみんなの様子を知る意味もありますが、一番大切なのは「ハイ」と返事をする場を作ることにあります。

現在は、特に素晴らしい返事ができる子たちを力強く褒めたたえながら、全体で返事の文化ができるようにじっくりと声をかけているところです。（谷口くんや村松くんの返事は特に爽やかで浣澗としていて感動しています。）

さらには、後始末です。

「席を離れる時は椅子を入れる」というマナーは、少しずつですが着実に身に付き始めてきています。

先行研究によれば、一つの習慣を身に着けるまでにかかる時間はおよそ3週間といわれます。

どの子にも大切なしつけの基礎が身に着けられるように、これからも声をかけ続けていきます。

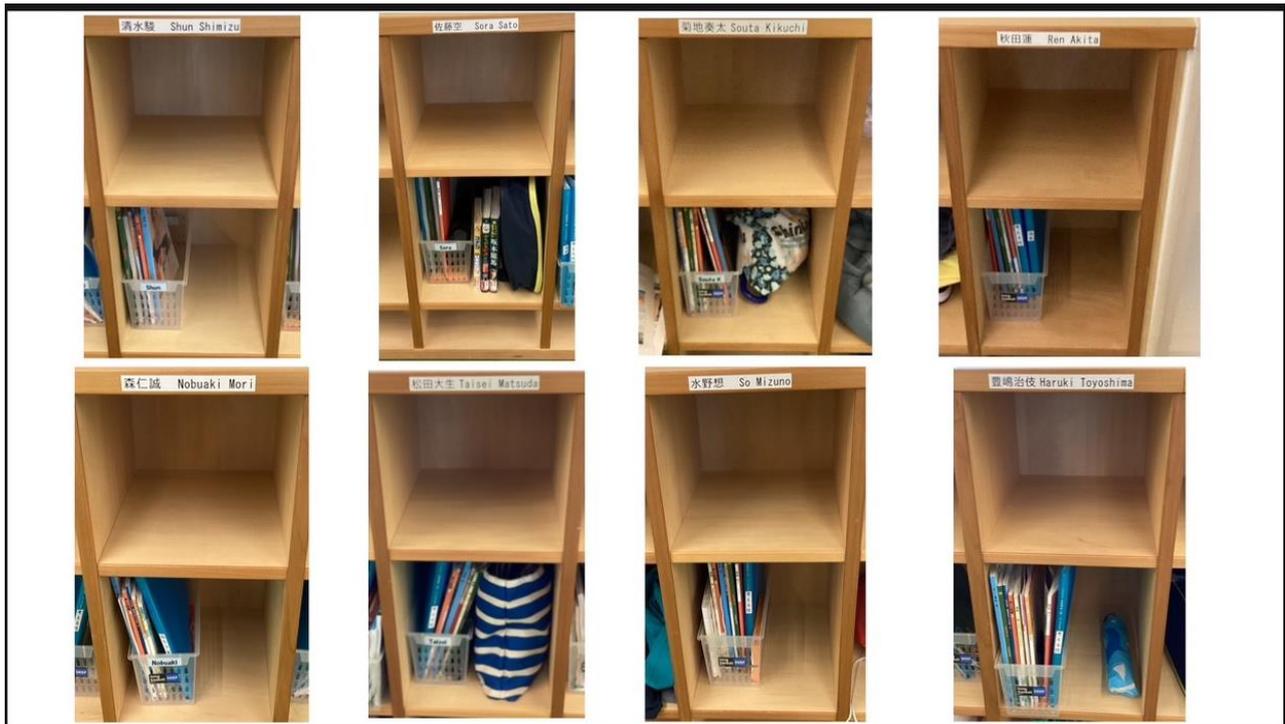
大切なことほど、点ではなく線の指導で、繰り返し伝えていく必要があるからです。

ちなみに、「後始末」の確認ポイントは、「ロッカー」もそうです。

使い方の丁寧な例を取り上げ、クラス全体で共有し、前向きな雰囲気の中で少しずつ成長していけるのが理想です。

そこで、山本先生にも協力していただき、定期的にロッカーの写真を撮ってもらうようにしています。

それを朝の会でお互いに見ながら、「整理されているロッカー」とはどのような状態なのかを一目で分かるように教えているところです。



一度綺麗に整頓することができたら、次の目標はそれを「キープすること」です。

以前も書いたように、道具を大切に扱おうとする姿勢からは、おのずと学習中のファインプレーが生まれやすくなります。

声を掛け合い、互いに良い意味での刺激をもらい合いながら進んでいきたいと思っています。

また、下のようなかかるた教材を使っでの学習もどこかで行う予定です。



単に言って聞かせるだけでなく、楽しい雰囲気の中で少しずつしつけの基礎を育てていきたいと思っています。